

第 63 回山口大学医師会・山口大学医学部主催 医師教育講座（体験学習）

「症例からひもとく最新の消化器癌、乳癌治療
～安心して紹介できる大学病院をめざして～」

と き 平成 29 年 1 月 29 日（日）9：30～12：25

ところ 講義 山口大学医学部附属病院

第 2 中央診療棟 3 階 多目的室 1・2

実習 山口大学医学部実習棟 A2 階 チュートリアル室

指導印象記

山口大学大学院医学系研究科

消化器・腫瘍外科学講座 西山 光郎
鈴木 伸明

平成 29 年 1 月 29 日、山口大学医学部附属病院内の第 2 中央診療棟 3 階多目的室において、山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学教室の担当により「第 63 回山口大学医師会・山口大学医学部主催医師教育講座（体験学習）」を開催させて頂きました。

今回はメインテーマを「症例からひもとく最新の消化器癌、乳癌治療」、サブタイトルを「安心して紹介できる大学病院をめざして」と題して、前半は当教室が附属病院で診療を担当している“消化器癌”、“乳癌”についての講義を行い、後半は実際の手術や創傷治療の手技についての体験学習を行いました。

冒頭に、永野浩昭 教授が開会の挨拶を行い、引き続き上部消化管（食道、胃）は武田講師、下部消化管（結腸、直腸）は鈴木講師、肝胆膵領域は坂本講師、乳腺は山本講師が症例報告という形式をとりながら、一般的な治療方法や治療成績、初診から術後経過までの流れなどについて解説を行いました。

上部、下部消化管の特色としては、鏡視下手術の進歩発展が著しく、当教室では 7～9 割の症例で鏡視下手術を行っており、手技的に難易度の高い食道癌に対しても鏡視下手術を標準としてい

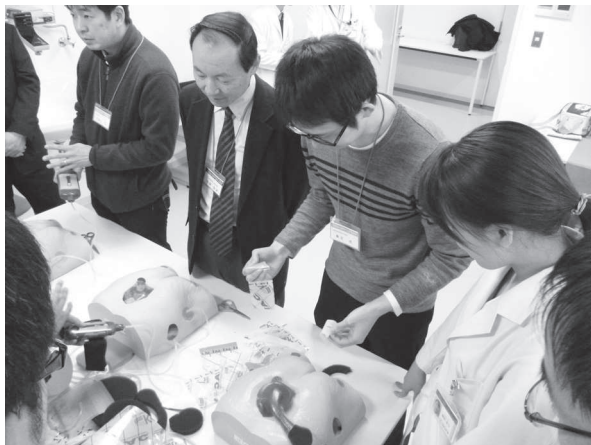
ることや、肛門に近い直腸癌であっても究極の肛門温存手術を行っていることについて、説明をいたしました。また、肝胆膵領域の特色としては肝切除に対しての腹腔鏡手術の導入発展と、胆膵領域の難治性の癌に対する術前化学療法を交えた集学的治療の取り組みについて、乳癌に関しては近年ますます複雑になる化学療法や乳癌術後の再建についての説明を行いました。参加された先生方も熱心に聴講され、たくさんの質問を頂戴し、活発な質疑応答と併せて熱のこもった時間となりました。



その後、実習 A 棟 2 階のチュートリアル室に移動し、体験実習を行いました。体験実習は、鏡視下縫合結紮、自動縫合器を用いた鏡視下体腔内吻合、開放創に対する陰圧閉鎖療法の 3 つのブースに対して 3 名ずつのグループに分かれてローテーションしながら実習して頂きました。

参加された先生方は内科の先生が多かったため、興味を持たれるかどうかについて主催する側としては少し心配ではありましたが、鏡視下縫合結紮、体腔内吻合ともに熱心に取り組まれ、関心を持って頂けたことは非常に嬉しい限りでした。参加された先生方にとっては、直接日常の診療に役立つ実習ではなかったかもしれませんが、手術を受けた患者さんのお腹の中の状態の理解に少しでも役立つことができればと思っております。

また、陰圧閉鎖療法は、術後の感染に伴う創離開に対して用いることが多く、難治性の潰瘍や褥創などにも非常に有効な治療法であり、こちらも大盛況で処置に必要な物品や機械の説明書を持って帰られる先生方も多くいらっしゃいました。



体験学習終了後に、永野教授より受講証の授与が行われ、閉会となりました。

参加頂きました先生方には講義、実習ともに、前向きに取り組んで頂きまして、大変ありがとうございました。少しでもお役に立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、消化器癌、乳癌診療の啓発を行う点で、非常によい機会を頂きました山口県医師会の関係者の皆様にこの場を借りて深く御礼を申し上げます。

受講印象記

岩国市医師会 藤本 浩一

「症例からひもとく最新の消化器癌、乳癌治療～安心して紹介できる大学病院をめざして～」と題された、第 63 回山口大学医師会・山

口大学医学部主催 医師教育講座（体験学習）が、平成 29 年 1 月 29 日（日）に山口大学医学部附属病院第 2 中央診療棟 3 階多目的室 1・2 で開催されたので、出席させていただきました。前半の 1 時間半を多目的室で講義 1「消化器（上部）」、講義 2「消化器（下部）」、講義 3「消化器（肝胆膵）」、講義 4「乳癌」、後半の 1 時間で体験実習が行われ、3 班に分かれたのち「腹腔鏡下縫合結紮」「自動縫合器による体腔内吻合」「創傷治療における陰圧閉鎖療法（VAC システム）」につき実際に経験いたしました。

はじめに永野浩昭 教授から開会のご挨拶があり、癌の病態の理解とその治療は日々進化しており、大学は常に新しい知見をわれわれ実地医家に情報発信していく責務があると述べられ、この会を設けられたとおっしゃっていました。

講義 1 では武田 茂 講師から、食道癌手術の 9 割が胸腹腔鏡で行われ、術中反回神経モニタリングを施行し麻痺を予防していること、胃癌手術の 8 割が腹腔鏡で行われ、縫合不全率も発生率も 4.6%と全国に比べ少なく、現在、完全腹腔鏡下手術治療へと昇華されていること、また、食道癌胃癌ともに鏡視下手術成績は従来開腹手術と遜色ないことを教えていただきました。

講義 2 では鈴木伸明 講師から、大腸癌につき、昨年度は直腸 66 例、結腸 31 例の手術が行われ、その 93%が腹腔鏡下で施行され、その結果、過去には直腸切断術となった症例が肛門温存術式へと変遷していったことを教えていただきました。その治療を完璧にするためのエッセンス、遺伝子変異ごとの術後抗癌剤治療につき解説いただきました。

講義 3 では坂本和彦 講師から、原発性肝臓癌、胆道癌・胆嚢癌、下部胆道癌・膵臓癌につき、それぞれの疾患につき丁寧にご説明いただきました。肝臓癌に関しては、永野教授赴任後よりミラノ基準に合致する症例には肝移植という治療選択肢が増えたことをご説明いただきました。ハイリスク症例管理の注意点、癌だけでなく発生母地となる C 型肝炎ウイルス治療にまで言及いただきました。

講義 4 では山本 滋 講師から、今や 11 人に 1

人の女性が乳癌に罹患し、診断方法から免疫染色によるサブタイプ分類と腫瘍径やリンパ節転移の有無による治療方針の違いにつき教えていただき、山口県内では唯一の乳腺専門医と形成外科専門医からなる乳房再建可能施設だということ、乳房再建予定患者には初回治療の時よりティッシュエキスパンダーを挿入し準備していることを講義いただきました。

いずれの講師の方々におきましても、簡潔明瞭でありながらポイントを押さえた内容を実際の症例を提示しながら、開業医がどのように対応したらよいかをご指導くださいました。

体験実習では、医療機器メーカーの協力により高価な医療材料を提供いただき、講師の方々の指導のもと、自らの手で腹腔鏡下縫合・吻合、陰圧閉鎖療法を行うという貴重な経験ができました。

今回の講習会におきまして、永野教授、山口大学消化器・腫瘍外科の皆様が、大学病院で行われている癌診療を、講義という形で、消化器癌・乳癌について、初期症状・検査・診断・外科治療・治療成績・抗がん剤治療・術後フォローアップと多岐にわたり、丁寧で分かりやすく、興味深く、



教えてくださり、さらには実習という形で、実際の最新外科治療の要点を経験させてくださり、講義内容の理解をより深めることができました。

3時間の講習会はあっという間に時間がたち、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

最後に、お忙しい中、このような素晴らしい講習会を開催してくださり、本当に感謝申し上げます。

